



## みちのく銀行

### 新幹線開業を見据え、 函館地区でも存在感を高める

金融コンサルタント  
剣崎優人

2016年3月26日に開業が迫る北海道新幹線の新青森〜新函館北斗間。東京〜新函館北斗間は最短4時間2分で結ばれる。開業に伴う道内の経済波及効果は、観光やビジネス客の増加などで年間約136億円との試算もある。

好影響は道内にとどまらない。仙台〜新函館北斗間は函館〜札幌間より短い約2時間半で結ばれる。また、青森〜函館間のアクセスが従来の2時間から約1時間へ短縮されることで、東北地方と北海道

の人が行き来しやすくなる。みちのく銀行では、新幹線函館延伸を見据え、青森県と北海道南部を津軽海峡経済圏ととらえて、アグリビジネスへの取組みを強化してきた。たとえば、両地域の食品の販路拡大による取引先支援と地域活性化を目的に、青函の企業と首都圏の料理人・バイヤーが参加する「第4回 津軽海峡食景色 青森・函館商談会」を昨年2月に東京で開催した。出展企業15社20名、料理人・バイヤー70社100名

の参加となった会場では、有名料理家の松田美智子氏による青函の食材を使用した試食メニューも味わいながら、商談が行われた。その結果、都内フランス料理店と自然牧場の熟成豚、都内中華料理店とアピオス（ほど草）、JR系列会社と深浦本マクロ等の商談が成約に至った。

みちのく銀行の主要戦略の一つである函館地区での戦力強化は、店舗や人員体制にも及んでいる。函館営業部を基幹店とするエリア営業体制のもと、統括店とビジネス店（法人・個人店舗）を合わせて7カ店体制、行員数は合計130名を誇る（15年9月末）。地区内支店の新築移転や増改築、駐車場拡張等も適時実施しており、本州の銀行としては最大規模の函館ネットワーク網で地元の北洋銀行や北海道銀行に伍している。

また、本部推進部門から住宅ローンセンター2名、年金専担者3名、預り資産専担者1名が函館地区に駐在。今年1月には、地元企業の借入れ

や経営に関する相談を受けるビジネスサポートセンターの運用を函館地区でも開始した。このように青函地域を一つの経済圏ととらえ、人材の増強や充実したネットワークを生かして、ビジネスと地域活性化の両面の取組みを強化してきた結果、同行の函館地区での貸出は右肩上がりが続ぎ、15年9月末で残高1127億円、シェア16・5%。預金も残高1729億円、シェア18・1%で、預貸金とも北洋銀行、ほくほくFG（北海道銀行、北陸銀行）に次ぐ規模を有している。

今後、東北地方の多くの地域において人口減少に伴う地域経済の縮小が見込まれており、銀行再編も予想される。その際、みちのく銀行が東北だけではなく道内でも一定の存在感をもつことは強みとなるろう。また、30年度末とされる新函館北斗〜札幌間の新幹線開通も待たれるなか、函館地区のさらなる強化に加えて、札幌などへの営業展開も検討課題となるろう。